

校名問題をさらにくわしく



勝山中学校

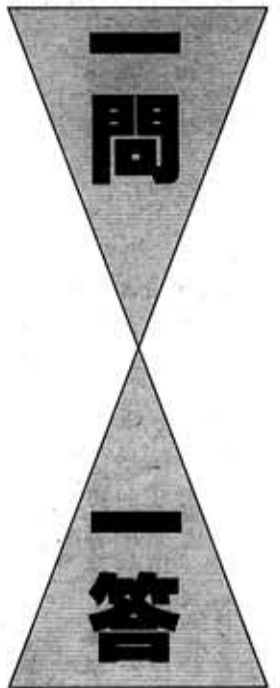


西ノ岡中学校



寺戸中学校

向日市立中学校名の決定に至る経過等は、さきのページでお知らせしましたが、さらに一問一答の形式でわかりやすくお知らせします。



「乙訓中学校」の校名はなぜつけられたのですか

〔答〕 昭和22年に新制中学校が発足した当時、旧乙訓地域一町七か村(向日町

新神足村・海印寺村・乙訓村・大山崎村・久世村・久我村・羽束師村)で組織する乙訓地域の学校組合の唯一の中学校として「乙訓中学校」の校名がつけられました。

この当時は、乙訓地域の各町村から通学する生徒に合致した、ふさわしい校名であったといえます。

乙訓中学校事務組合がなぜ解散することになったのですか

〔答〕 その後、生徒数の急増に伴って、昭和46年には大山崎町に第二乙訓中学校が、昭和48年には京都市南区久世地域に第三乙訓中学校が、昭和50年には向日市物集女町に第四乙訓中学校がそれぞれ増設され、さらに、昭和57年4月開校をめぐり、向日市寺戸町に(仮称)第五乙訓中学校が建設の運びに至ったのであります。

このように、乙訓中学校のマンモス化に対応して、新しい中学校がそれぞれの自治体に増設されたこと、加えて、京都市西京区大原

野地域から乙訓中学校へ通学する生徒も、昭和57年4月以降は、洛西ニュータウン内に新設される中学校に通学することとなり、自治体を越えての通学者がなくなるという状況に立ち至りました。

「乙訓」の名称をなぜ変えたのですか

前の質問でお答えしたとおり、乙訓中学校事務組合が解散し、昨年4月からは向日市立の中学校として、向日市の生徒のみが通学することになったため、向日市の学校にふさわしい校名を選定することにしたわけです。

校名決定は、なぜ乙訓中学校事務組合の解散決定後にできなかったのですか

〔答〕 事務組合立の既設中学校の二校と新設中学校一校の三校を、昭和57年4月1日から本市立中学校として円滑に受入れるため校名の選定をはじめとし、そ

の移管事務を早くから進める必要がありました。

校名選定委員会により校名を選定したのはなぜですか

〔答〕 乙訓中学校事務組合の解散にかかる財産処理の問題等で、組合を構成する三市一町間で協議が難航し、昭和57年3月末の組合解散そのものも極めて難しい事態を迎え、組合解散の合意をみる以前に、新しい校名を決めるという作業は全市民からアンケートをとったり、広く市民の声を聞いたりして、すすめることが難しい状況の中で、取り組まざるを得なかったのであります。

教育委員会としては、このような限られた条件の中で、市民の意向を反映させるための最善の方法として学校の実態や地域の事情に明るい方八名に校名選定委員になっていただき、校名の選定にあたっていただいたのであります。

「勝山中学校の校名変更に関する請願」が、不採択となつたことはどういう意味がありますか

〔答〕 ご承知のとおり、昨年4月1日から、向日市立中学校として発足した市

内にある三つの中学校の名称は、昨年2月18日の市議会臨時会において審議された結果、議会制民主主義のルールに従い、向日市としての団体意思の決定をみたものであります。

その後、「勝山中学校の校名変更に関する請願」が昨年12月開会の市議会定例会に提出されました。これを受けて、市議会においては慎重に審議され、請願書は不採択になりました。

このことは、昨年2月18日の市議会で可決された新しい中学校名「勝山」の決定が確認されたこととなります。

この結果、勝山中学校がよき伝統を受けつぎ、新しい校風を樹立して大きく飛躍発展することを願っております。

今後、育友会をはじめ、関係者に対して協力を求めていきたく考えておりますので、市民のみなさんのご理解をお願いいたします。なお、今回の請願は、ま

市民の

みなさんの

ご理解とご協力を